

「WMO マルチハザード早期警報システムとサービス提供に係る国際シンポジウム」に参加しました（2015/03/16）

テーマ：マルチハザード早期警報システム(MHEWS)、強靱な社会の構築、パートナーシップ
場所：災害科学国際研究所 多目的ホール

2015年3月16日（月）、災害科学国際研究所多目的ホールにて、「WMO マルチハザード早期警報システムとサービス提供に係る国際シンポジウム」が開催されました。本シンポジウムは世界気象機関(WMO)と日本の気象庁が中心となり、マルチハザード早期警報システム(MHEWS)の現状・課題および強靱な社会の実現について、WMO 事務局長のミッシェル・ジャロー氏をはじめ、気象庁の西出長官、気象研究所の永田所長、各国の気象庁長官を含む、約150名が参加しました。災害科学国際研究所からは奥村 誠 副所長（人間・社会対応研究部門）のほか、小野裕一 教授（情報管理・社会連携部門）、岩崎俊樹教授、山崎剛准教授（災害理学研究部門）、柴山明寛准教授（災害アーカイブ研究部門）、呉修一助教（災害リスク研究部門）らが参加しました。

オープニングセッションではまず、奥村誠副所長が当研究所について紹介しました。続いて、1. MHEWS の概要および途上国・先進国における導入、2. 予報・警報の成功・失敗および科学行動面からの要因、3. MHEWS の将来展望および統合的な天気・気候サービスを通じた強靱な社会の構築について、世界各国からの各機関代表者による講演およびプレゼンテーションが行われ、具体的な取り組みを踏まえて活発な意見交換が行われました。



当研究所について紹介する奥村副所長



シンポジウムの様子

文責：小野裕一（情報管理・社会連携部門）